

患者さん、地域の皆さんへ

2020年7月 勤医協苫小牧病院 院長 宮崎 有広

新型コロナウイルス感染症による、緊急事態宣言が終了しましたが、東京で連日3桁を超える新規患者の発生や、札幌での新たなクラスターなど、全く予断を許さない状態が続いています。

新型コロナの問題では、勤医協中央病院でのクラスター発生があり、皆さんにも大変御心配をおかけしました。幸い、新たな感染はなく、中央病院はクラスターの収束宣言を6月22日に出しています。

勤医協苫小牧病院では、2月から今まで、新型コロナの患者さん、職員は、幸い発生しておりません。しかし、院内感染を起こさせないために、職員全員が今までとは異なるレベルの感染対策を強いられており、そのストレスも大きなものがあります。

この間、患者さん、地域の皆さんからは、病院職員に対し、数多くの励ましの言葉を寄せていただきました。また、友の会の方や地域の皆さんから、手作りも含めて、フェイスガード、ガウン、マスクなどを、数多く病院に提供していただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。今後も気を緩めることなく、対策を継続していきます。

この間、病院入り口で、体温を測定され、事務、看護師の窓口、透明ビニールシートの壁が天井から下がり、医師、看護師、技師がゴーグルをつけて対応しているなど、安全対策とはいえ、病院にいらした方は、面食らい、またその距離感に寂しさ、冷たさを感じられたかもしれません。ソーシャルディスタンスという言葉は、私は適切ではないと思いますが、身体的距離を保つことが、今の時期に必要なことを御理解いただきたいと思います。

病院としては、上記の感染対策に加えて、現在、電話診療を開始しています。体調に変化がなく、薬を同じように継続したい方、検査結果のみ聞きたい方を対象に月曜から金曜日まで（時間限定ですが）行なっておりますので、利用を御希望の方は御連絡ください。

今後、少しずつ、集会やイベントの制限が解除される可能性があります。感染対策が徹底できるのか大きな不安が依然残っているのが現状です。当院でも、6月の院内コンサートや、健康友の会の「春のつどい」が残念ながら中止となりました。秋の「友の会健康まつり」も断念せざるを得ない状況です。不特定多数のイベントが以前のように開催できるまでは、まだ時間がかかると思います。それまで、身体的距離は離れても、患者さん、地域の皆さんと、病院との絆を、今まで以上にしっかり保っていけるように、皆さんと知恵を出し合いながら努力したいと思います。